

第13回
NRI学生小論文コンテスト2018
[受賞論文記録集]



テーマ
Share the Next Values!
**2030年の
未来社会を創る
イノベーションとは**
——世界に示す
日本の底力!

Share the Next Values!

2030年の 未来社会を創る イノベーションとは

—世界に示す
日本の底力!

高校生・大学生の皆さんは、自身が活躍しているであろう2030年ごろの日本がどのような社会になっていると想像しますか？

変化が激しく先の予測がつかないこの時代、NRIは皆さんと一緒に、社会をしっかりと見据えながら未来を切り拓いていきたいと思っています。

2030年へ向けて、逆境をバネに夢のある未来社会と、日本が持つ底力について考えてみてください。



「NRI 学生小論文コンテスト」とは？

日本と世界の未来について、次代を担う若い学生のみなさんに考える機会を持っていただくための論文コンテストです。

野村総合研究所 (NRI) は、「未来創発——Dream up the future.」という企業理念のもと、未来社会のパラダイムを洞察し、その実現を担うことを使命としています。

この一環として、これからの社会を担う若い世代の皆さんに、日本や世界の未来に目を向け、自分たちが何をなすべきかを真剣に考え、その熱い思いを発表する場を持っていただこうと、2006年から毎年「NRI 学生小論文コンテスト」を開催しています。

毎年、学生の皆さんから、日本と世界の新たな関係づくりや、明るい未来に向けた斬新で力強い提案をいただいています。

NRIは、コンテストで入賞した若い世代からの提案を広く社会に公表することによって、若者を含む幅広い世代が、日本の未来を考えるきっかけにいただきたいと思います。

「真に意味あるイノベーション」につながる 皆さんからの斬新な提案をお待ちしています

今年で13回目となるNRI学生小論文コンテストでは、大学生、高校生の皆さんに「2030年の未来に向けた提案」をしていただきたく、テーマを設定しました。2030年という年は、日本における労働生産性の伸び率、就業率、総労働時間等を勘案すると、日本がマイナス成長に突入するタイミングに当たります。一方で、イノベーションで生産性を高めることができれば、力強い成長と豊かな生活を実現する道に進むことも可能です。

NRIのビジョンステートメントである「Share the Next Values!」には、明るい未来への強い思いと、それを実現する底力、そして様々な強みをもつ人々との共創により、多くの人を幸せにする「真に意味あるイノベーション」を起こそう、という意味が込められています。

様々な問題を抱える、課題先進国の日本だからこそ、世界を変えるイノベーションを起こせるはず。逆境をバネにして「真に意味あるイノベーション」を起こし、日本、ひいては世界の新しい時代を切り拓く、皆さんからのオリジナリティある提案をお待ちしています。



NRI代表取締役社長
此本 臣吾

これまでの募集テーマ

大学生の部・留学生の部 | 高校生の部

- 第1回 (2006) ユビキタスネット時代のITと人間の関わり | モチベーションクライシス
- 第2回 (2007) 日本が世界と共生するには | 日本から見た世界 世界から見た日本
- 第3回 (2008) 日本の「第三の開国」に向けて | 2015年の日本人像・家族像
- 第4回 (2009) ITを活用した日本発ビジネス | 日本はコレで世界一になる!
- 第5回 (2010) 日本が世界のためにできること | 世界のなかで日本の魅力を高めるには
- 第6回 (2011) 2025年、新しい“日本型”社会の提案 | 2025年の日本を担うわたしの夢
- 第7回 (2012) 自分たちの子ども世代に創り伝えたい社会
あるべき社会の姿と私たちの挑戦 | 私たちがすべきこと、できること、やりたいこと
- 第8回 (2013) あなたが考える“わくわく社会”を描いてください
- 第9回 (2014) 創りたい未来社会 —あなたの夢とこだわり
- 第10回 (2015) 2030年に向けて —「守るもの」、「壊すもの」、「創るもの」
- 第11回 (2016) Share the Next Values! 世界を変える、新たな挑戦
- 第12回 (2017) Share the Next Values! 地方の課題をイノベーションで解決する。
サブテーマ ①震災復興 ②地方創生 ③地方の産業改革



これまでの受賞論文記録集

ジャーナリスト

池上 彰 さん

「若い皆さんにしか書けない、 破天荒で自由な発想を大切に！」

2006年の第1回目から携わっている「NRI 学生小論文コンテスト」の審査も、今回で13回目となりました。毎回、応募作品に優劣をつける作業には大変悩みますが、高校生や大学生からの提案に私自身が大いに刺激を受け、楽しみながら審査にあたっています。

回を重ねるごとに、論文としての体裁が整った優秀な作品が増えてきていますが、その一方で、どこか発想や構想がごちゃまじりとまとまってしまっているようにも感じています。実現可能性には関係なく、若い皆さんにしか書けない、もっと突飛で破天荒な発想を大切にしてほしいと思います。そんな斬新な論文に出合えることを楽しみにしています。



池上 彰 (いけがみ あきら) ——ジャーナリスト。名城大学教授、立教大学客員教授、日本大学文理学部客員教授、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院特命教授、信州大学特任教授、愛知学院大学経済学部特任教授。特定非営利活動法人「日本ニュース時事能力検定協会」理事、毎日新聞「開かれた新聞」委員会委員。1973年NHKに記者として入局し、1994年から「週刊こどもニュース」の“お父さん”を11年間務め、2005年独立。著書に『伝える力』『池上彰の現代史授業——21世紀を生きる若い人たちへ シリーズ』『知らない恥をかく世界の大問題』『池上彰教授の東工大講義』『大世界史』『考える力がつく本』など。

ノンフィクションライター

最相 葉月 さん

「未来社会に向けて想像力を働かせ、 自由にテーマに挑んで！」

毎年、論文の審査にあたっていると、高校生や大学生の若い世代の皆さんに、高齢化社会を支えていくことへの重圧感が年々増しているように感じています。すぐそこにある近い未来である2030年、国民の3人に1人が65歳以上という時代が到来します。

誰も年をとれば死が訪れ、核家族時代にあつては残された家族は一人になります。年をとって一人であること、孤独であることを、ポジティブにとらえてほしい、孤独はとても素晴らしい時間なのだということをもっと若い皆さんには想像してほしいと思います。

未来を担う若い皆さんが、未来社会に向けていかに想像力を働かせ、どんなテーマに挑むのか、楽しみにしています。



最相 葉月 (さいしょう はづき) ——ノンフィクションライター。科学技術と人間の関係性、災害、医療などを中心に取材執筆活動を行う。著書に『絶対音感』(小学館ノンフィクション大賞)『青いバラ』『ピヨンド・エジソン 12人の博士が見つめる未来』『セラピスト』『れるられる』『ナグネ 中国朝鮮族の友と日本』『調べてみよう、書いてみよう』『理系という生き方——東工大講義 生涯を賭けるテーマをいかに選ぶか』、共著『胎児のはなし』など多数。『星新一一〇〇一話をつくった人』にて大佛次郎賞、講談社ノンフィクション賞、日本SF大賞、日本推理作家協会賞(評論その他の部門)、星雲賞(ノンフィクション部門)受賞。

大学生の部、高校生の部 募集テーマ

Share the Next Values!

2030年の未来社会を創る イノベーションとは ——世界に示す日本の底力!

人口減少や高齢化、財政破綻の不安、産業競争力の低下など、現状の延長線上で日本の未来を考えると、明るい姿を描くことは容易ではありません。「公」への依存は限界を迎え、地域、企業、さらには国民一人ひとりが、自らの力と責任で生きていかなければならない時代が到来します。

このような状況を打破して成長・進化するために、日本の地域や企業は、必然的に地球規模で活路を見出していくことが求められます。大都市や大企業だけでなく、地方も含めた日本の全ての地域や企業が、グローバル化を加速せざるを得ないのです。

しかし、悲観することはありません。第二次世界大戦後、経済的にどん底の中から、日本は高度経済成長によって見事な復活を果たしました。コンテストに応募される学生の皆様の祖父母に当たる世代の方々が、日本の成長を支えたのです。そのDNAを受け継ぎ、**未来を担う学生の皆様に、2030年の未来に向けた提案をしてもらいたいと思います。**

では、2030年までの間に、世界はどのように変わっていくのでしょうか。AI(人工知能)やIoT(Internet of Things)などのデジタル技術は、今後もさらに進

展していくと考えられます。また、NRIでは、日本の労働人口の49%が就いている職業が、10~20年後にはAIやロボットで代替できるという推計を行いました。これは一見すると脅威に感じられますが、AIの仕事と人間の仕事を上手に切り分けることで、日本の労働人口減少に対する特効薬になりえます。

さらに、日本には優れた文化や日本独自の技術があります。これらを新たな技術と融合することで、地方の中小企業にもグローバル化への活路を見出す可能性が秘められています。**様々な問題を抱える、課題先進国の日本だからこそ、世界を変えるイノベーションを起こせるのです。**

NRIのビジョンステートメントである「Share the Next Values!」には、明るい未来への強い思いと、それを実現する底力、そして様々な強みをもつ人々との共創により、多くの人を幸せにする「真に意味あるイノベーション」を起こそう、という意味が込められています。

逆境をバネにして「真に意味あるイノベーション」を起こし、日本、ひいては世界の新しい時代を切り拓く、皆様からのオリジナリティある提案をお待ちしています。

「2030年の未来社会を創るイノベーション」——世界に示す日本の底力！
斬新で、オリジナリティある提案をお待ちしています

大学生の部

募集期間

2018年7月2日～9月6日

応募資格

日本国内の大学院、大学、短大、高等専門学校（4～5年）に在籍している学生で、2018年7月2日時点で27歳以下の、個人またはペア（ペアの相手は、「大学生の部」「高校生の部」いずれかの応募資格者であること）。

字数

4,500～5,000字 *別途400字程度の要約を添付

賞

[大賞1作品] 賞金50万円

[優秀賞2作品] 賞金25万円

[奨励賞 若干] 賞金5万円

高校生の部

募集期間

2018年7月2日～9月12日

応募資格

日本国内の高校、高等専門学校（1～3年）に在籍している学生で、2018年7月2日時点で20歳以下の、個人またはペア（ペアの相手は、「高校生の部」の応募資格者であること）。

字数

2,500～3,000字 *別途200字程度の要約を添付

賞

[大賞1作品] 賞金30万円

[優秀賞2作品] 賞金15万円

[奨励賞 若干] 賞金3万円

〈応募に際しての注意事項〉

- ・応募論文は、日本語で執筆された、自作で未発表のものに限る。
- ・他の著作物を引用する場合は、その箇所を明記するとともに、論文の最後に出所を記載する。
- ・図表中の文字、図表タイトル、注釈、参考文献一覧は、字数に含まない。図表の数は5点以内とする。
- ・他のコンテストなどに同内容の得論文を多重応募することは禁止とする。
- ・最終審査会のプレゼンテーションの映像は、内容を確認した上でYouTubeで公開。
- ・入賞した論文の著作権は、野村総合研究所に帰属する。

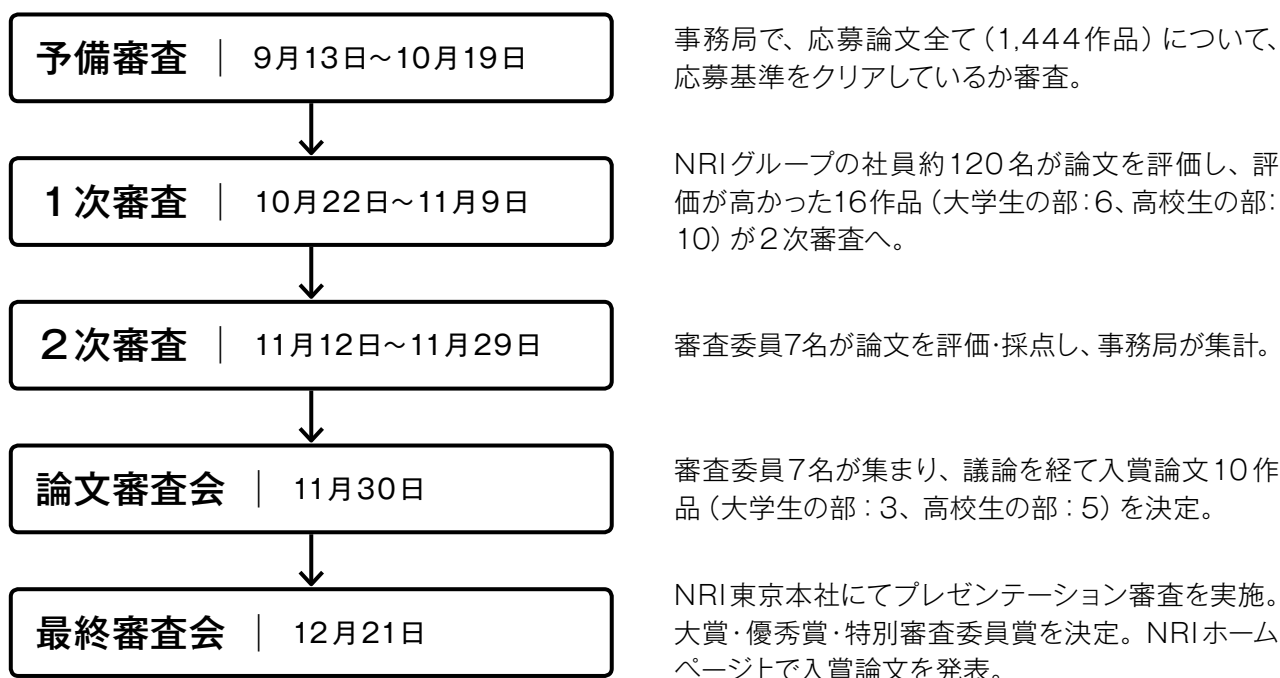
NRI 学生小論文コンテスト2018 審査のプロセス

入賞論文は、予備審査→1次審査→2次審査→論文最終審査→最終審査会という5つのステップを経て決定しました。

前回コンテストからプレゼンテーション審査を追加

- 論文審査を通過した入賞者は、最終審査会においてプレゼンテーションを行っていただきました。
- 各賞は、最終審査会におけるプレゼンテーションで確定させました。

最終審査会以外は、どの審査においても、応募者の学校名、氏名などの属性を秘匿したうえで、厳正に行っています。また、評価が偏らないように、1つ1つの応募作品を複数の者が評価しています。



〈論文審査の評価基準〉

◆ テーマと論点の整合性

◆ 問題発見力

- ・ 独自性・斬新さを持った問題の提起がなされているか
- ・ 論点に対する切り口の鋭さ、考察の深さ
- ・ 具体例、数値を使用するなど論点のわかりやすさ

◆ 問題解決力

- ・ 提案や解決策のスケールの雄大さ、視野の広さ
- ・ 提案や解決策の独自性・実現性

◆ 文章力

- ・ 論文構成のわかりやすさ
- ・ 文法の正しさ、誤字・脱字の少なさ

◆ 上記には該当しない評価点

- ・ 評価基準以外の尺度においても、特に評価が高い論文は加点(例: テーマや提案内容に対する熱い想い、独自の調査・取材の実施、体験談、など)

入賞者のみなさん、おめでとうございます！

大学生の部

大賞

スマートヘルスケアモビリティ ～オーダーメイドAIが導く、幸せを創出する車～

須井 翼 早稲田大学 創造理工学部4年

優秀賞

「コーチング型教育」への教育イノベーション ～AI時代に必要な人材を学校教育で～

越智 達也 北海道教育大学 札幌校 教育学部4年

特別審査 委員賞

子育て支援・家事代行の担い手としてシニア力を活用

——子育て終了世代の余力を子育て世代に『ペイフォワード』

岩間 優 東京医科大学 医学部医学科6年

高校生の部

大賞

「お金」に名前を書く ——生きることと学ぶことをつなげる

佐藤 拓海 茨城県 明秀学園日立高等学校2年

優秀賞

日本が誇る最強繊維

清田 彩加 東京都 中央大学高等学校3年

優秀賞

「マナビ介護」による介護うつへの減少は可能か。

松賀 翔佑 北海道 立命館慶祥高等学校3年

特別審査 委員賞

根室とロシアの合同大学設立に向けて

岸本 万尋 北海道 立命館慶祥高等学校3年

特別審査 委員賞

「はじまりの村」が作る循環型社会

長谷川 その香 宮城県宮城野高等学校2年

大学生の部 敢闘賞・奨励賞

空の交通機関の安全運行に資するGNSSとその拡張機能の可能性について **敢闘賞**
 永田 右京 慶應義塾大学 総合政策学部総合政策学科1年

Eポイントカードで創るオールジャパンでイージャパン **奨励賞**
 濱田 友理 群馬県立女子大学 国際コミュニケーション学部4年

社会課題の緩和・解決に資する商品の普及に向けた課題とその解決策 **奨励賞**
 樋口 晃太 中央大学大学院 商学研究科2年

「医療保険×スポーツジム」から始める日本の未来 **敢闘賞**
 福田 千恵子 京都大学 経済学部2年
 谷口 貴志 京都大学 法学部2年 (共著)

シニアと外国人技能実習生間でのパートナーシップ制度の導入
 ～第2の家族を目指して～ **敢闘賞**
 吉富 佑亮 同志社大学 政策学部4年
 田中 瑞幹 同志社大学 政策学部4年 (共著)

高校生の部 敢闘賞・奨励賞

食品ロス問題—食品廃棄を減らすために考える— **奨励賞**
 新井 祥子 埼玉県 狭山ヶ丘高等学校1年

次世代ロボット技術の進展による幸共生社会の実現 **奨励賞**
 扇原 柚子 埼玉県 狭山ヶ丘高等学校1年

医師も患者も安心できる旅立ちを **敢闘賞**
 小河 桃子 北海道 立命館慶祥高等学校3年

AI時代の現代社会に即した商業科目「起業実践」創設の提案 **奨励賞**
 梶 知聖 福井県立福井商業高等学校3年

IoT・AIと教育の融合—日本文化をなくさないために— **奨励賞**
 加藤 瑞葉 埼玉県 狭山ヶ丘高等学校1年

AI・ロボットと共に紡ぐ未来 **奨励賞**
 小竹 潮香 神奈川県 湘南白百合学園高等学校2年

W担任制度—晴れの国おかやまの次世代教育改革— **奨励賞**
 佐藤 笑太 北海道 立命館慶祥高等学校3年

少子高齢化と向き合う **奨励賞**
 佐藤 風季 神奈川県 湘南白百合学園高等学校2年

シルバー世代が日本を救う! **奨励賞**
 鈴木 瑞穂 愛知県立時習館高等学校2年

AIと共存することのできる人材を育てる
 ～近未来の日本経済を救え!～ **敢闘賞**
 高木 櫻子 神奈川県 湘南白百合学園高等学校2年

高齢者が生き生きとする社会へ **奨励賞**
 高橋 七海 埼玉県 狭山ヶ丘高等学校2年

AIヘルパー **敢闘賞**
 高橋 萌花 北海道 立命館慶祥高等学校2年

世界につながる地域の活性化 **敢闘賞**
 千鹿野 ひなた 埼玉県 狭山ヶ丘高等学校2年

おいでヨ! ながぬまプロジェクト **敢闘賞**
 芳賀 雪奈 北海道 立命館慶祥高等学校3年

保育園を、開かれた「ラボ」に—小さなコミュニティが、未来を創る— **奨励賞**
 平島 竹琉 北海道 立命館慶祥高等学校2年

「NRI学生小論文コンテスト2018」の応募論文数と入賞論文数は、以下のとおりです。

応募論文数

大学生の部	高校生の部
77 (14)	1,367 (37)
総数 1,444 (51)	

()内はペア応募数

入賞論文数

	大学生の部	高校生の部	計
受賞 (大賞・優秀賞・特別審査委員賞)	3	5	8
敢闘賞・奨励賞	5	15	20
計	8	20	28



論文審査会の様子